

岐阜県美術館 企画展のご案内
THE MUSEUM OF FINE ARTS, GIFU

素材転生

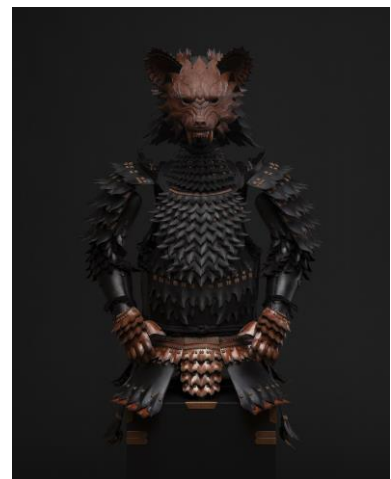
Beyond the Material



林 茂樹《deva device "TC-Z"》 2019 年
撮影:野村知也



富田美樹子《始祖の形》2020 年



塩見亮介《茶絲素懸絨威山狗胴具足》2019 年

展覧会名	素材転生 - Beyond the Material
会場	岐阜県美術館 展示室 2 bc, 3 (岐阜市宇佐 4 - 1 - 2 2)
会期	令和 3 年 4 月 2 4 日 (土) ~ 6 月 2 0 日 (日) 10:00 ~ 18:00 ※展示室の入場は 30 分前まで ※4 月 2 4 日 (土) は 10:30 開場 ※夜間開館日: 5 月 2 1 日 (金)、6 月 1 8 日 (金) は 20:00 まで開館 ※休館日: 毎週月曜日 (祝日の場合は翌平日) [5 月 3 日 (月・祝) 開館、6 日 (木) 休館]
観覧料	一般 1,000 (900) 円 大学生 800 (700) 円 () 内は 20 名以上の団体料金 高校生以下無料 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病に関する医療費受給者証の交付を受けている方およびその付き添いの方 (1 名まで) は無料
主催	岐阜県美術館、中日新聞社
後援	NHK 岐阜放送局
助成	公益財団法人田口福寿会

■ 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のため、予定を変更する場合があります。
事前に岐阜県美術館 Web サイトでご確認ください。

本資料に関するお問い合わせ

岐阜県美術館 広報担当: 橋本 展覧会担当学芸員: 齋藤
〒500-8368 岐阜市宇佐 4 - 1 - 2 2
TEL. 058-271-1314 FAX 058-271-1315

<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp> E-mail: hashimoto-hironori@pref.gifu.lg.jp

素材転生

Beyond the Material

本展覧会について

今世紀に入り、美術や工芸を取り巻く環境はますます多様化しています。工芸と美術は相互に深く交信することで、それまでの用途性から解放され、素材の在り方そのものを問う表現を模索していきました。美術系大学や専門学校で工芸を学んだ世代は戦後の美術をすでに歴史として受容し、工芸的素材や古来の技術を今に生かしてハイブリッドな作品を生み出しています。

本展では、素材の特性から生まれる表現と、素材に必須なテクニック、付随する装飾性といった要素を根幹に創作に挑む作家 8 名を紹介します。素材をいつくしみ渾身の力を注ぐその創作性は、日本的特性でもあり国際的にも強い発信力をもっています。境界を往き来する表現はいつの時代にも新しく、刺激的です。彼らのパワフルでヴィヴィッドな表現をご堪能ください。

作家紹介

素材(materials)を超え、物質(the material)を超えて転生させる8名の作家を紹介。

出品作家（8名）

- ・ 林 茂樹 HAYASHI Shigeki（磁土・鋳込） 1972 年 岐阜県土岐市生まれ、東京都在住
- ・ 富田美樹子 TOMITA Mikiko（磁土・色絵金彩） 1972 年 大阪府生まれ、在住
- ・ 根本 裕子 NEMOTO Yuko（陶） 1984 年 福島県生まれ、在住
- ・ 宮田 彩加 MIYATA Sayaka（刺繍） 1985 年 京都府生まれ、在住
- ・ 大貫 仁美 ONUKI Hitomi（ガラス） 1987 年 千葉県生まれ、在住
- ・ 豊海 健太 TOYOUMI Kenta（漆） 1988 年 大阪府生まれ、石川県在住
- ・ 塩見 亮介 SHIOMI Ryosuke（鍛金） 1989 年 大阪府生まれ、岐阜市育ち、東京都在住
- ・ ウチダリナ UCHIDA Lina（和紙） 1990 年 東京都生まれ、在住

林 茂樹 / HAYASHI Shigeki [磁土・鑄込]

1972 年岐阜県土岐市に生まれ静岡県立大学を卒業後、岐阜県立多治見工業高校専攻科でやきものを学ぶ。磁器土を用い、鑄込みの技法により異次元の人物像を創る。膨大な数の型から精密にパーツが作られ組み上げられる。スペーススーツの赤ん坊や、バイクに跨る子供、羽の生えた少年など、ビスクドールのマットな肌に、陶磁器の釉薬ならではの艶やかな色が映える。素材の特性が彼の生み出す特異なフィギュアたちに瑞々しい命を吹き込んでいる。



《00-XVI》2014 年 樂翠亭美術館蔵

富田 美樹子 / TOMITA Mikiko [磁土・色絵金彩]

《始祖の形》2019 年

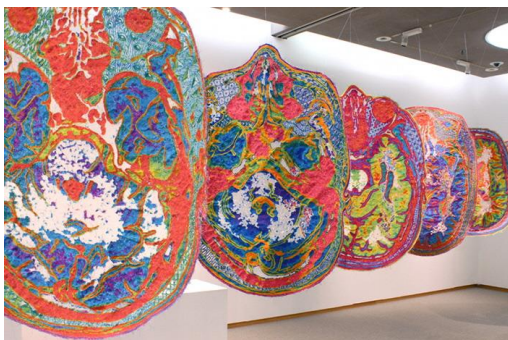
1972 年大阪府枚方市に生まれ、京都市立芸術大学陶磁器専攻卒。鑄込みと手びねりで成形したボディの上に、万古焼の盛絵の技法に倣い、色絵と金彩の釉薬を一粒一粒盛り上げて加飾していく。繰り返しの作業の果てに創造される濃密な世界は、モスクやパゴダの装飾を連想させる。細胞のように増殖する点や曲線は、宗教的建造物のみならず、遺伝子から生まれる生物や植物、宇宙の法則などからも触発されている。

根本 裕子 / NEMOTO Yuko [陶]

1984 年福島県に生まれ、東北芸術工科大学大学院陶芸領域を修了。初期から陶による手びねりの技法で異形のものたちを創造してきた。福島と向き合い、近年は野良犬を造り続けている。彼らは群れを成し、皺が刻まれ、傷を背負ってたたかに生きている。作者にとって陶は、痕跡を遺すことで生きるものへの畏怖とその尊厳を表し得る、不可欠な素材である。



《野良犬》2016-21 年 撮影:大槌秀樹

宮田 彩加 / MIYATA Sayaka [刺繍]

《MRI SM20110908》2016-20 年

1985 年京都市に生まれ、京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)大学院染織領域を修了。最初手刺繍から始めるが支持体を伴わない機械刺繍に移行することによって糸は空間に足跡を刻むこととなる。平面に刺繍された動物や植物、骸骨はその本体から糸が伸び、別の作品とつながることで関係性を行き来させている。自身の頭部や腰椎の MRI 画像を写し込んだ作品は宮田のライフワークであり、一つひとつ増えていくその軌跡は宮田の未来であり、同時に過去の自分へと向き合う時間でもある。

大貫 仁美 / ONUKI Hitomi [ガラス]

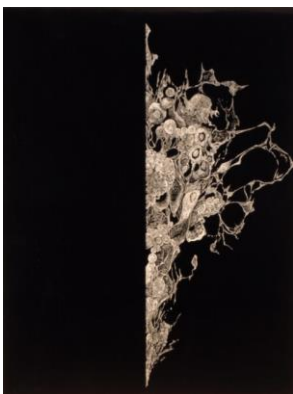
1987 年千葉県に生まれ、武蔵野美術大学大学院工芸工業デザイン学科を修了。ガラスのキャスト(型成形)の技法を用いて、我々の最も身近にある衣服(シャツや靴下、女性の下着)を型取り網目やレース、皺をガラスに写し取る。個々のパーツは、接着部分に金彩を施すことで、日本が古来、器の修復に用いた金継の技法になぞらえる。作者はそれらを「傷」と呼び、その記憶を修復することで次代へと自らを繋ぐ。



《秘められた、その「傷」の在処》2020 年
撮影:赤羽佑樹

豊海 健太 / TOYOUNI Kenta [漆]

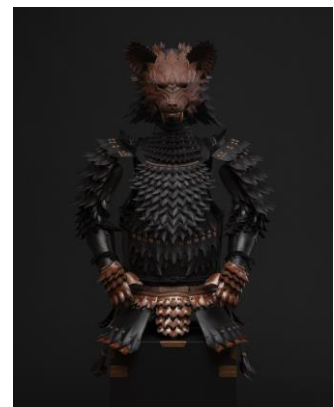
1988 年大阪府に生まれ、金沢美術工芸大学大学院工芸領域漆芸分野で博士号を取得。2020 年から金沢卯辰山工芸工房に務める。漆黒の画面は鏡面のように研ぎ、磨き上げられることで周囲を写り込ませて自らの存在をなくしていく。なまなものから生まれ固化する漆と、命を生み出してその役割を終える卵殻は、生と死を同時にはらんでいる。それによって描かれるのは、増殖する細胞を孕んだ子宮や精子、骨盤、鹿の骨である。



《幽体 01》2016 年

塩見 亮介 / SHIOMI Ryosuke [鍛金]

1989 年大阪に生まれ高校までを岐阜市で過ごす。東京藝術大学大学院鍛金専攻を修了。学生の頃から鍛金による甲冑を作る。鍛金は銅や鉄、真鍮を金槌で絞り、^{たがね} 鑿で叩いて微妙な凹凸を刻んでいくことで、細部を作り上げていく技法である。鎧兜をまとう者たちの顔は猛獣や猛禽類、鬣髯であり、すべてが自己防衛であると同時に、弱い自分を覆い隠そうとする虚栄の象徴でもあるという。全てを自らの手により作り上げる長い工程のなかに、彼の強さが潜む。



《茶絲素懸緘威山狗胴具足》2019 年

ウチダ リナ / UCHIDA Lina [和紙]

1990 年東京に生まれ、千葉で育つ。東京藝術大学ではデザイン科に所属し、大学院では染織を専攻しつつも染めや織りをする^{はね}ことなく、和紙で制作をし続けてきた。蛾の翅は焼き色によって細かな模様が表現される。型に合わせて、薄い和紙をふのりで固めながら、骸骨や人体を作っていく。はかなげで危ういその虚像はしかし、リアルな蛾の存在によって、虚から実へと観る者を引きもどす。



《Rebirth II》2018 年

■ 開催期間中イベント

◆作家トーク

内 容：アーティストトーク「転生するものたちⅠ」

日 時：令和3年4月24日（土）13：30～15：30

出 演：土生和彦（宮城県美術館学芸員）・林茂樹・豊海健太・塩見亮介（出品作家）

会 場：岐阜県美術館 多目的ホール

内 容：アーティストトーク「転生するものたちⅡ」

日 時：令和3年6月20日（日）13：30～15：30

出 演：富田美樹子・宮田彩加（出品作家）・担当学芸員

会 場：岐阜県美術館 多目的ホール

◆ナンヤローネ×素材転生 アートアクション「こわす+つなぐ」

日 時：令和3年4月25日（日）10：15～16：00

講 師：大貫仁美（出品作家）

会 場：岐阜県美術館 多目的ホール

◆ナンヤローネ×素材転生 アートツアー「《野良犬》とつくる物語」

日 時：令和3年5月30日（日）14：00～15：30

会 場：岐阜県美術館 展示室3

◆ナンヤローネ×素材転生 アートアクション「和紙をかさねる一ひとはね」

日 時：令和3年6月6日（日）10：15～15：30

講 師：ウチダリナ（出品作家）

会 場：岐阜県美術館 多目的ホール

◆美術講座

日 時：令和3年5月8日（土）14：00～15：30

担 当：正村美里（展覧会監修者）

会 場：岐阜県美術館 講堂

日 時：令和3年6月12日（土）14：00～15：30

担 当：齋藤智愛（担当学芸員）

会 場：岐阜県美術館 講堂

◆夜間開館ギャラリートーク

日 時：令和3年5月21日（金）、6月18日（金）各日19：00～19：30

会 場：岐阜県美術館 展示室3

※定員、参加料、事前申し込みの有無など詳細情報は、岐阜県美術館 Web サイトにてお知らせしていきます。（事前申し込みは岐阜県美術館 Web サイトより）

ご来館のみなさまへお願い

岐阜県美術館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、安全に配慮した取り組みを行なっています。

- ・発熱、咳などの風邪症状がある方、体調がすぐれない方はご来館をお控えください。
- ・入館にあたり、マスクの持参・着用、こまめな手洗い・消毒、来館者同士の距離の確保にご協力ください。

◎ 会期やイベントの最新情報は、岐阜県美術館 Web サイトをご覧ください。

(<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>)

岐阜県美術館

検索

岐阜県美術館企画

「素材転生 - Beyond the Material」

広報画像貸出申込書

FAX 番号: 058-271-1315



貴社名		ご担当者名	
媒体名	(掲載コーナー、特集名:)		
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL :	FAX :	
	E-mail :		

1. ご紹介いただける場合、貴媒体の情報をお知らせください。

掲載/放送	月	日	発売・放送 (月号) / 発行部数	部
掲載内容				

2. 広報画像はご使用になりますか。

☐ はい 画像データ到着希望日 (月 日)
 ☐ いいえ (写真は使用せず、文字掲載のみ)

3. 別紙の写真をご参照の上、ご希望の【画像番号】にチェック☑してください。

下記キャプションの作品名称、所蔵を必ずご記載ください。

☒	番号	ご掲載時のキャプション表記
☐	①	林茂樹《OO-XVI》2014年 楽翠亭美術館蔵
☐	②	富田美樹子《始祖の形》2020年
☐	③	根本裕子《野良犬》2016-21年 撮影:大槌秀樹
☐	④	宮田彩加《WARP×Knot -ポピーを形成するプロット-》2015年 撮影:中澤有基
☐	⑤	大貫仁美《秘められた、その「傷」の在処》2020年 撮影:赤羽佑樹
☐	⑥	豊海健太《幽胎04》2018年
☐	⑦	塩見亮介《茶糸素懸緘威山狗胴具足》2019年
☐	⑧	ウチダリナ《Rebirth II》2018年

■広報画像一覧

①



②



③



④



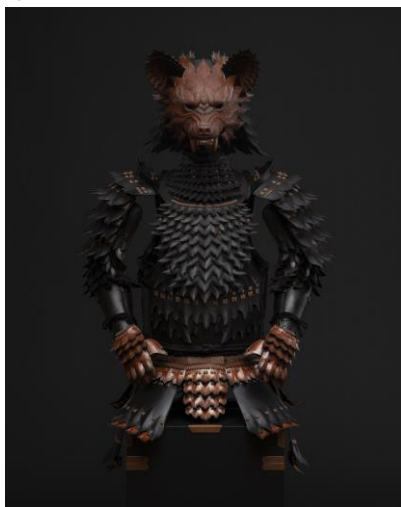
⑤



⑥



⑦



⑧



【広報画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります。
- 展覧会名、会期、会場名は、必ず掲載してください。
- 作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなどの画像の加工・改変はできません。
- 転載などの2次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードをしてください。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録テープ・DVD等を、岐阜県美術館へ1部お送り願います。
- 会期中の会場取材・撮影をご希望の場合は岐阜県美術館までご連絡ください。